

人と人を繋ぐ「地域の案内人」

地域おこし協力隊

古田隊員の取り組み

地域おこし協力隊の古田隊員が着任し、まもなく一年半を迎えます。これまで古田隊員は、県外で開催される移住フェアなどに積極的に出向き、移住を考えている人、地域とゆるやかに関わりたい人など、相談者の生き方や希望に合わせてまちの魅力を伝えてきました。

今回、これまでの古田隊員の活動内容や、感じている南越前町の魅力をご紹介します、改めて「わが町南越前町」の誇れるところやほかにはない良さをお伝えします。



PROFILE 古田 峻

大阪府出身。高知県の大学を卒業後、東京にて建設コンサルタント企業に就職。その後、地元大阪に戻り、家具職人として勤務した後、縁あって南越前町に移住。2年間、宿泊業や農業に携わった後、昨年5月に南越前町地域おこし協力隊に着任。最近ハマっていることは、スマートフォンアプリを使った語学学習(英語)です。

古田隊員の 日々の活動イメージ

②得られたことを形にする



実体験から南越前町の魅力や良さを中心にまとめる。

具体的な内容

- イベントの企画
- 記事や原稿の作成 など

①実体験をする



協力隊任務や日々の生活の中で様々なことに気づき、新たな発見を得る。

具体的な内容

- 林業、農業などの現場体験
- 地域イベントやまつりへの参加 など

③伝える



まとめたことを広報やホームページ、イベントに参加して発信する。

具体的な内容

- 林業体験の実施
- セミナーでの登壇 など

イベント参加者や住民の方からの反応や意見を基に企画内容を見直したり、新たな体験を立案したりするなど、より内容を深めていく。

古田隊員が地域の方々と共に歩む

“南越前町の魅力”を紹介します。

「最初に、南越前町に移住しようと思った決め手を教えて下さい。」

大学を卒業して東京で働き始めた頃から、田舎暮らしに憧れを持っていました。東京で自宅と職場を行き来する日々を過ごしていた時、「やっぱり田舎の方が面白いことができそうだな」と考え、思い切って飛び込むことを決意しました。情報収集していた時に出会ったのが、今庄宿にある「地域まるっと体感宿 玉村屋」です。玉村屋に滞在した時に感じた「南越前町の空気感」が自分に合ったことが移住の決め手です。直感的な要素が大きかったですね。



「日ごろどんな活動に取り組まれていますか。」

まずは、町を知ることが一番だと思い、町内至るところへ足を運び、自分の目で確認することと意識してきました。訪れた先の情景は、インスタグラムにも投稿し発信してきました。

また、明治大学生が来町された際には、私の観光施設や名所をご案内しました。人にお伝えすることで改めて町の魅力を感じることもでき、勉強にもなりました。

直近では、南条小学校にゲストティーチャーとしてお招きいただき、都会での生活経験のある私が思う南条地区の魅力を子ども達に伝えさせていただきました。



▲学生に道の駅を案内



▲小学校での授業の様子



▲Instagramの投稿

「不安はありませんでしたか。」

私だけではなく、移住希望者のほとんどが移住先での「仕事」に不安を感じています。私も自分に合った職が見つかるだろうか、生活しているだけの収入が得られるだろうか、大きな不安がありました。その不安を少しでも解消できるよう、地域おこし協力隊になり「仕事」をテーマにした移住促進、関係人口づくりに取り組むことにしました。

「町内で魅力を感じた仕事を教えて下さい。」

林業です。町の約92%を山林が占めており、高齢化や生活様式の変化から林業の人手不足を伺い、南条郡森林組合に話を聞きに行きました。

実際に山林に入り、林業の現場を見て感じたことは、思っていた以上に環境が充実していることでした。収入面の安定はもちろん、ドローンやGPSなどIT技術の活用や、仕事で習得した技術をD-I-Yに活かせるなど、**田舎暮らしを求める移住者にマッチしやすい職業だと感じています。**



▲林業現場での一枚
▲木が倒れる瞬間



▶ドローンを使った測量
▶GPSで森林の境界を測量



町の方に聞く！

エピソード1

南条郡森林組合 越 徹さん

実体験の大切さ

林業を知るには、実際に山に入り、自分の体で体験し、山の空気を感じることが一番です。古田さんも一緒に山に入り経験したことは強みですよ。

変化

古田さんと出会い、若い人の考え方やこれまでにない視点など、こちらが良い刺激をたくさんもらっています。東京での移住イベントにも一緒に行き、良い経験をさせてもらいました。

新たな発見

中でも林業を副業で出来ないかというアイデアをもらいました。※「半農半X^{はんのうはんをうす}」という言葉があるように、まさにこれからの林業のあり方のヒントになります。

※小さな規模の農業で自分や家族が食べる分を自給しながら、残りの時間で自分の好きな仕事ややりがいを感じる別の仕事(X)をすること。

(例)「半農半サラリーマン」、「半農半ライター」など。

南越前町の魅力

南条・今庄・河野の地域によって山主さんの考え方や人柄が異なるところが面白いですね。それぞれの地域性に合わせて仕事をしています。

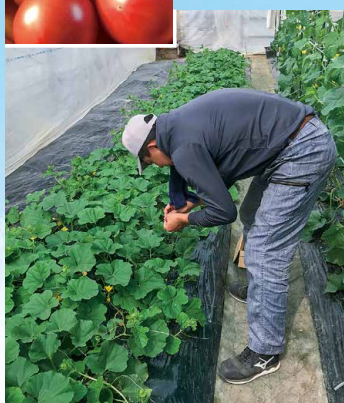


▲町内産間伐材のオリジナルコースター





▲彦治郎さんの
トマト



▲メロンの受粉作業



▲大きな白菜



▲花ハス収穫の様子

「農業にも触れたそうですね。」

これまで、花ハスの収穫や畑の手伝いに行きました。南越前町に来るまで花ハスをじっくり見たことも、野菜の成長過程を見たこともありませんでした。

お手伝いをしていて気づいたことがあります。物を作るといっていろんな人から声がかかるということです。「ホウレンソウの芽、出たか?」「これちょっと食べてみるか?」と、町内ではよくある光景かもしれません。

農業を通じて出会いが増え、新しい人との関わりが増えました。まさに、「人と人の助け合い」そのものが町内にあると私は考えています。

町の方に 聞く!

エピソード2

農業 田中 彦治郎さん

これまでの関わり

「農業や今庄のことをもっと知ってほしい」という想いで、地域おこし協力隊や都市部の学生などを畑に受け入れてきました。南越前町で人と人が知り合い、協力し合えることを考えてきました。

来た人に向けて

集落の活動も含め、ありのままの田舎暮らしを見てほしいです。農業や田舎暮らしの厳しさを言い伝えたことでもあります。

でも、来てくれたほとんどの人が「思ったよりも良い」と言ってくれますね。

相乗効果

自分が若い人と接すると元気をもらえるし、視野も広がります。自分にプラスになります。農業体験をした人から連絡があったり、再び今庄に来てくれたりした時は嬉しいです。

これから必要だと思うこと

素朴な人柄の人が多いですが、これからはもっと住民自らが動かないといけないと感じています。移住者や若者に対する地域の理解がこれまでに必要だと思っています。



▲ハウス内の折り菜



―都会にはない南越前町の魅力とはなんでしょうか。―

日常生活の中で人とのつながりを感じられることだと思います。

社会全体の潮流として効率化が進み、買い物

一つを取ってもレジの無人化が進み、店員さんのいないスーパーが当たり前になりつつあります。町内には個人商店もスーパーも両方があり、時と場合によって選択ができる。選択肢があることが喜びだと思います。

町の方に 聞く！

エピソード3

上山精肉店 上山 優美さん

印象に残っている出来事

古田さんがお好み焼きを作ってくれて、それが凄く美味しかったです。さすが関西出身の人だと思いました。

普段の関わり

普段、買い物に来てくれた時、色々な話ができるので、とても親しみを感じます。

若い人や田舎が好きな人が来てくれると、こっちまで明るい気持ちになります。

嬉しかった一言

やっぱり「お肉美味しかったよ」とか、町外から来た人に「良い町ですね」と言われると、「南越前町は良いところなんやな」と改めて思えます。

南越前町の魅力

人が親切。店の前をよく観光客が通りますが、道案内したり、雨が降った時に傘を貸したりしている近所の人もいます。みんな良い人です。



▲お裾分けの南京の煮物と牛スジ、柿



―どのように魅力を発信していますか。―

東京都千代田区有楽町に公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構が運営する「ふるさと回帰支援センター・東京」があります。この施設は、全国の地方移住に関する情報を移住希望者へ発信している場所です。この場所で林業と暮らしをPRするイベントを企画・開催しました。

具体的には、町内の暮らしや林業について写真やトークセッションを交えて首都圏の方に紹介しました。また、町内産の間伐材をその場で削り、木の匂いを感じながらのコースター作りやつるし柿の実食など、五感で南越前町の暮らしをイメージできるよう工夫しました。

―参加者の反応を教えてください。―

南越前町の認知度はまだまだ高いとは言えません。しかし、道の駅や鉄道遺産などの観光名所、つるし柿や甘露梅肉などの特産品を紹介すると、「通ったことがあります」、「自分の店で紅梅液を使ってメニューを提供しています」と返答があり、これまでも南越前町に触れたことがある人は潜在的にいるように思います。また、「良いところですね」、「一度行ってみたいです」と言う声も多く聞かれます。



▶町の魅力を伝えている様子



▲ふるさと回帰支援センター・東京でのワークショップの様子



▲これからも頑張っていきます！



▲暮らしの魅力を伝えるよう心がけています



▲県内のシンポジウムでも成果を報告

「最後に町民の方に一言お願いします。」
人と接し、人とのつながりを感じ、人の温かさに触れる生活を送れることが、まさにこの町の魅力だと確信しています。
この魅力を発信しながら、町民の皆さまにも「わが町の魅力」や良さを実感し、自信や誇りをさらに感じていただけるよう、これからも活動を通じてお伝えしていきたいと思っています。



こんにちは！地域おこし協力隊の古田です。秋が足早に過ぎて、冬の足音が聞こえてくる日々ですが、皆さま、元気で過ごしてでしょうか。今回は特集ということで紙面を頂戴し、これまでの活動を振り返り、全体像を明らかにするような記事を広報担当者と打ち合わせを重ねて書いていただきました。

正直、就任当初は「何したらえんやろ…」と不安の方が強かったのですが、地域の方々、福井県庁や外部の団体の方々、役場の方々に支えていただきながら、なんとかやってこれました。

特集記事の作成にあたって、日頃からお世話になっている方々にインタビューをさせていただいたのですが、どなたにインタビューをお願いするかを考えた時、日々お世話になっている方々の顔が次々と浮かんできて「たくさんの方々に支えていただいているんやな～」と、とても嬉しい気持ちになりました。活動を通して出会った方々との何気ない会話や笑顔が、何よりの



四季を感じられるこの町が好きです

の励みになっています。地域おこし協力隊の活動は、地域の人と一緒に作っていくものだ日々実感しています。

こうして皆さまに支えられながら、林業体験を皮切りに、移住フェアの出展、ふるさと回帰支援センターでのイベント開催、林業体験プランの企画をはじめ、様々な機会をいただき、幅広い活動ができています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は、現在の方向性を大切にしながら、林業に限らず、町の魅力を広く伝えていきたいと思っています。自然や人のあたたかさ、暮らしの豊かさを、体験を通じて感じてもらうような取り組みを少しずつ形にしていけたらと考えています。

そして、南越前町を気に入って訪れてくださる方が増えることで、この町に暮らす住民の皆さまが「うちの町っていいな」と改めて思っただけなら何より嬉しいです。

残り1年半の任期も引き続き頑張っていきますので、今後ともよろしくお願いします！

■問合せ 観光まちづくり課 ☎ 0778-47-8013



MINAMIECHIZENCHO_IJYU
Instagram



海の美しさにも感動します